

## 2012 年度厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金報告書要旨

大黒島・厚岸沿岸域におけるゼニガタアザラシの餌（魚類・タコ・イカ）の現存量推定に関する研究

京都大学霊長類研究所・シーライオンズクラブ 和田一雄

古くから大黒島で繁殖していたゼニガタアザラシは、1960年代に猟獲されて、50-100頭にまで減少したが、最近 2010年の換毛期には204頭にまで回復した。このような傾向は、襟裳岬でも同様で、同年9月には443頭を記録した。このようにして、増加傾向になると、周辺の漁業、特に秋サケ定置網での被害が増加するといわれている。その際、個体数の増加に伴う採食量の増加を、周辺海域の餌になる魚類の現存量がまかないきれなくて定置網のサケを狙うのではないかとの推定が行われることがあった。これまでに、餌になる魚類の現存量の推定は行われたことがないので、潜水して魚類の直接観察を行う、予備的調査を実施した。

調査期間：2012年6月15日(予備調査)、7月11日(本調査としてのライントランセクト調査)

調査方法：予備調査：深度10mのところ、ブイの左右に潜士1人ずつ配置し、平行に100m移動しながら、目視とビデオ撮影による魚類分布調査を行った。

本調査：大黒島内湾側で、岸と平行に100mラインを3本引き、そのラインに沿って両側を潜士による目視とビデオ撮影による魚類分布調査を行った。3本のラインは岸側から深度3m、5m、7m地点に設置した。

調査潜士：藤田尚夫・横山一徳・斉藤真人・郡山尚紀・福島由華里

調査時の海況：予備調査、本調査とも同様な海況であった。水温0-11℃、透明度3m(不良)、潮流なし、やや弱い南東の風。コンブの漁期のため、海底はナガコンブが繁茂しており、底性魚類を探索するにはコンブの裏などに隠れている個体を探索には困難を伴う場合があった。また、透明度が不良なことが魚類の探索をさらに困難にしていた。

観察された魚類：1)イカナゴ 体長約1.5cmの仔魚の群れが高密度に見られた。2)タウエガジ 体長約35cmのものが岩場に稀に見られた。3)オキカズナギ 体長約8-10cmのものが4-5匹群れており、100mライン中に2-3群認められた。4)ムロランギンポ 体長約30cmのものが岩場に稀に見られた。5)クロガシラガレイ 体長約15cmのものが岩場に稀に見られた。6)エビの1種、ワレカラ 約1.5cmの仔魚がコンブのなかで群れて折、100mライン中に4-5群見られた。7)ホッケイエビ 体長約15cmのものが海底の岩場に稀に見られた。8)ケガニ 甲羅サイズ8cmのものが岩陰に稀に見られた。9)クリガニ 大量に生息していた(正確に計量していない)。10)エゾバフンウニ 直径10cm大のものが岩の上に大量に生息していた。

考察：コンブの繁茂期をはずして行えば、魚類の定量的調査は可能であろうと思われた。